

192  
2  
55

舞樂圖

右



石舞目錄

壹越調

一新鳥蘇

一退走德德或作禿

一胡蝶

一綾切

一皇仁庭

一埴破

一仁和樂

平調

一林歌

雙調

一登天樂

一古鳥蘇

一納蘇利

一延喜樂

一敷手

一貴德

一胡德樂

一蘇志摩利双

一進走德走或作宿次同

一長保樂

一蘇利古

一新靺鞨

一狛狛

一崑崙八仙

本圖混平雙五曲于壹越調中。宜准此目以正。

一白濱

一地久

明治 38 8 14 圖書



一 一 鼓

一 一 曲

一 東遊  
一 人長

一 大和舞  
一 風俗

樂面 二十五圖

陵王

還城樂

納蘇利

拔頭

胡飲酒

散手

貴德

蘇利古

安摩

二舞

胡德

瓶子取

採桑老

皇仁庭

秦王

地久

八仙

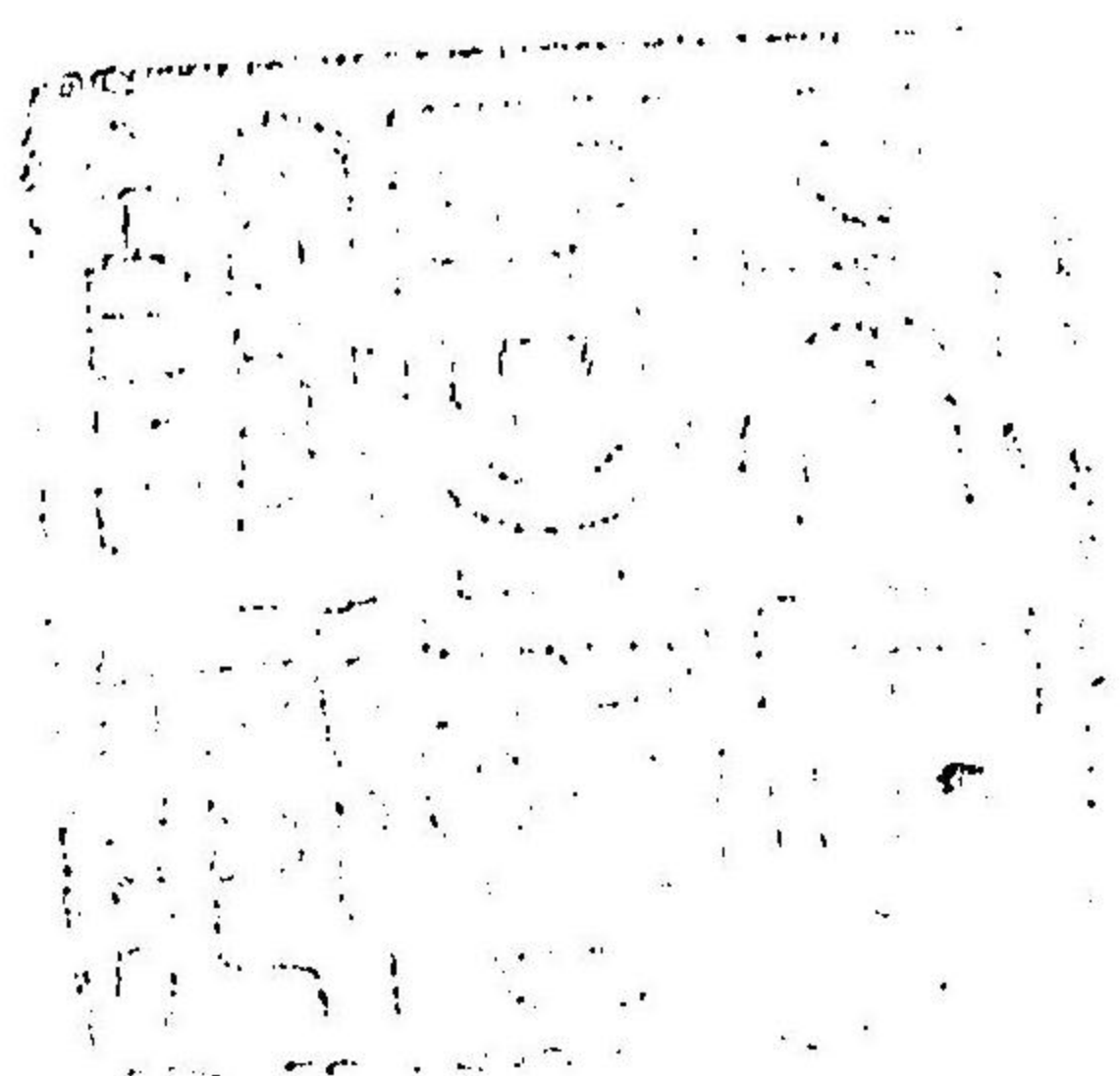
退走德

進走德

新鳥蘇

綾切

舞樂圖 右方



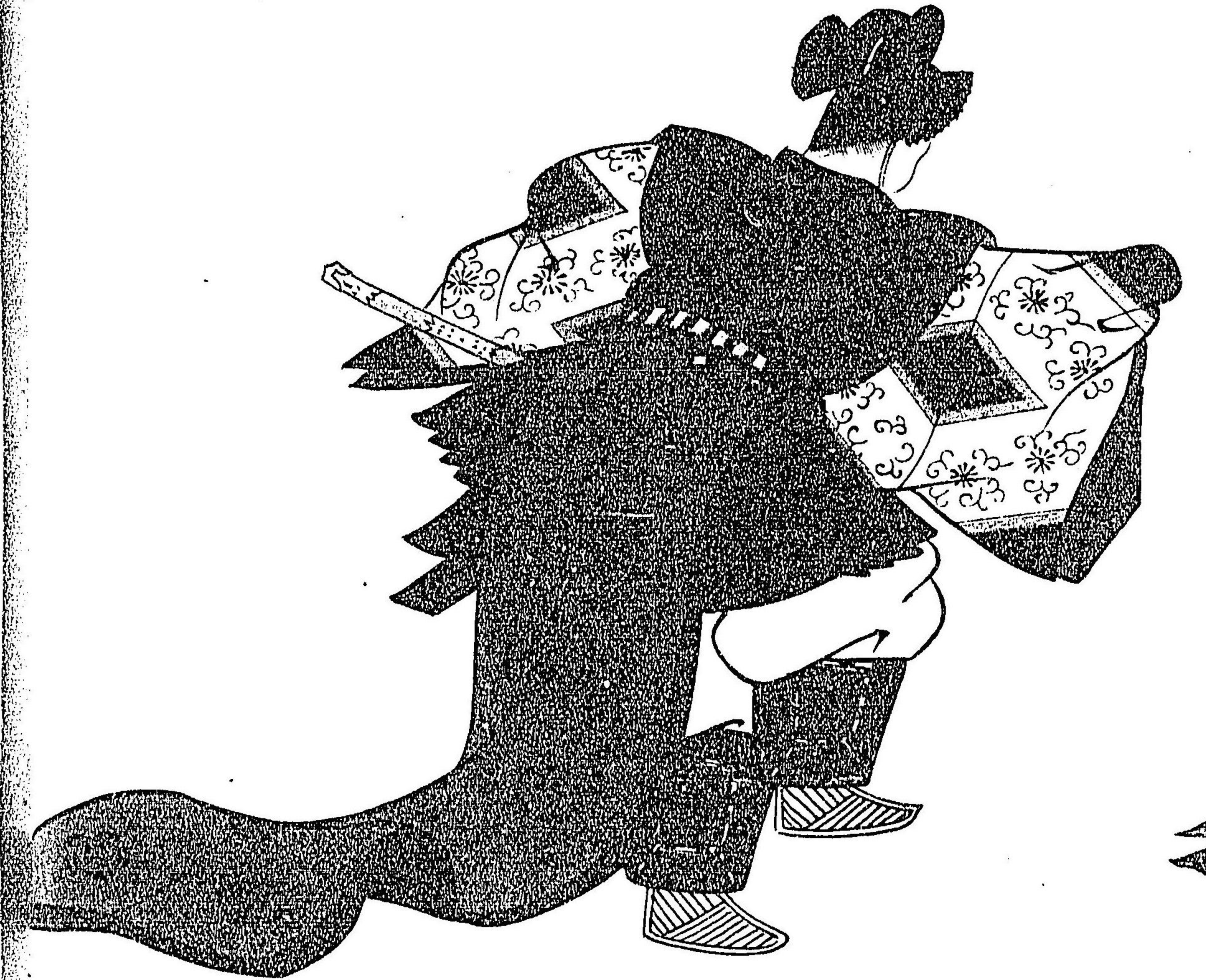
新鳥蘇

四人舞





古鳥蘇  
六人舞

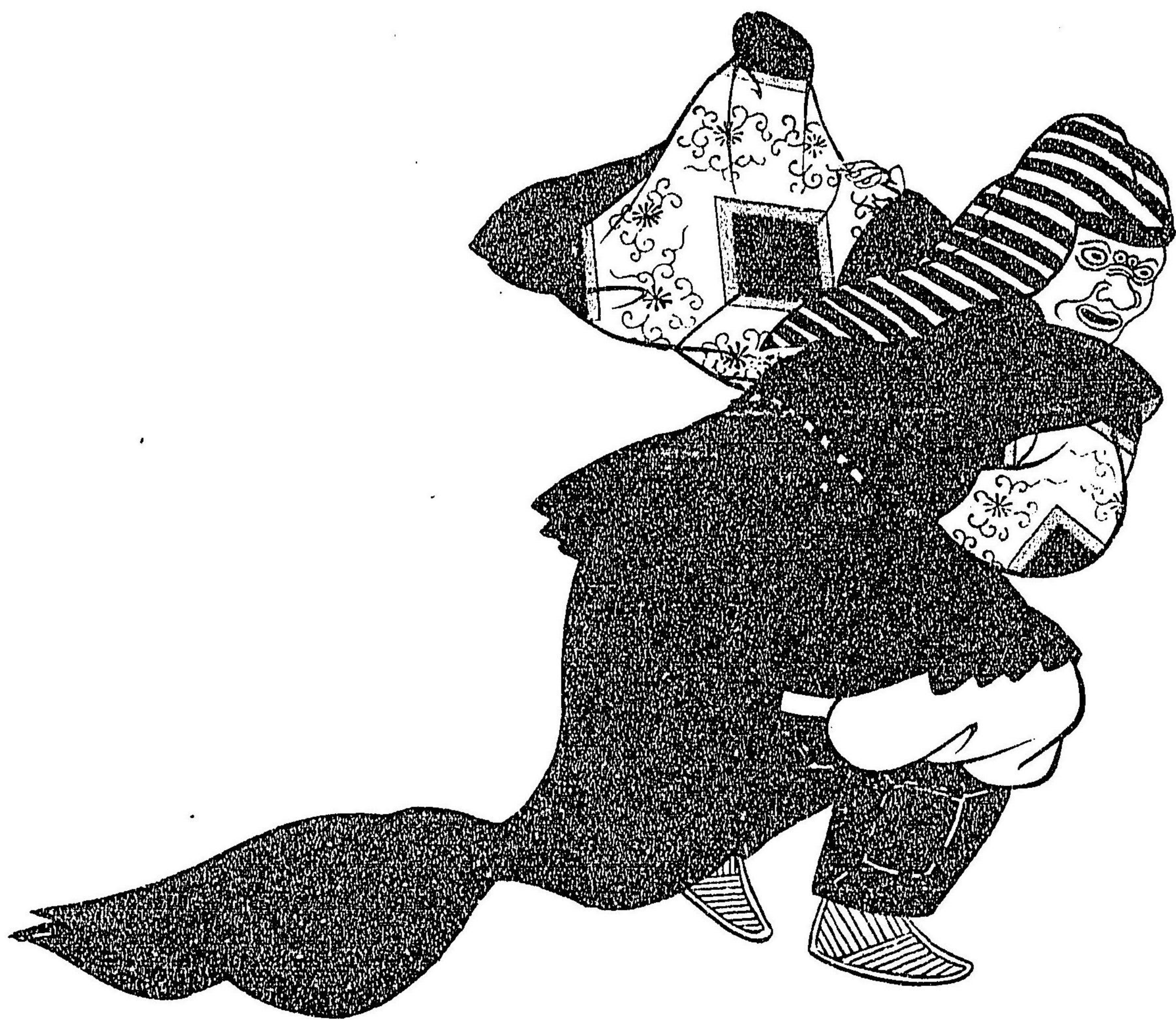


進宿徳  
四人舞





退宿禿  
四人舞



納曾利  
一人舞





長保樂  
六人舞



胡蝶  
四人舞

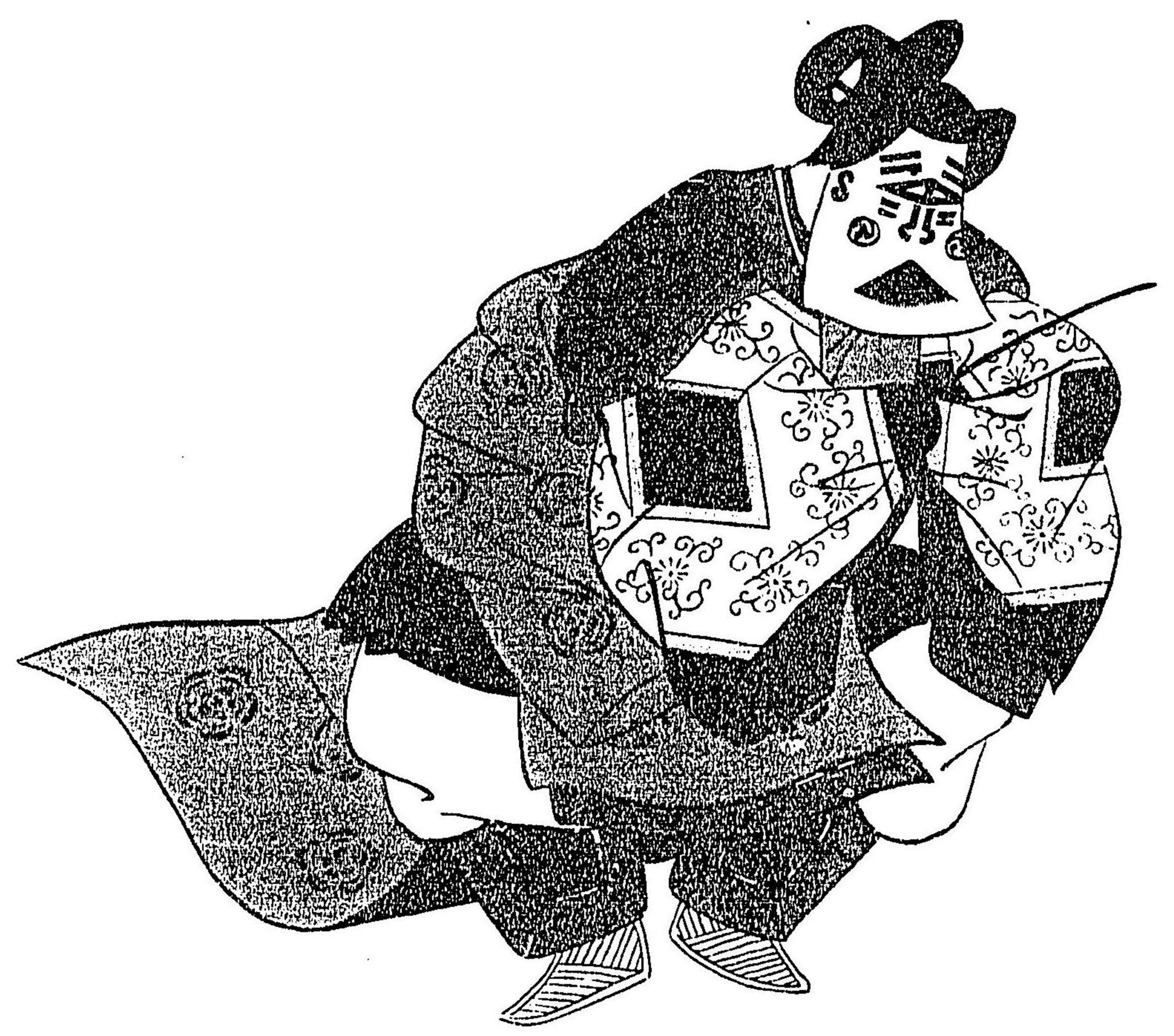




延喜樂  
六人舞



蘇利古  
四人舞





登天樂  
六人舞



敷手  
四人舞





新  
鞆  
四人舞



皇  
仁  
庭  
四人舞





貴德

一人舞



狛  
梓

四人舞

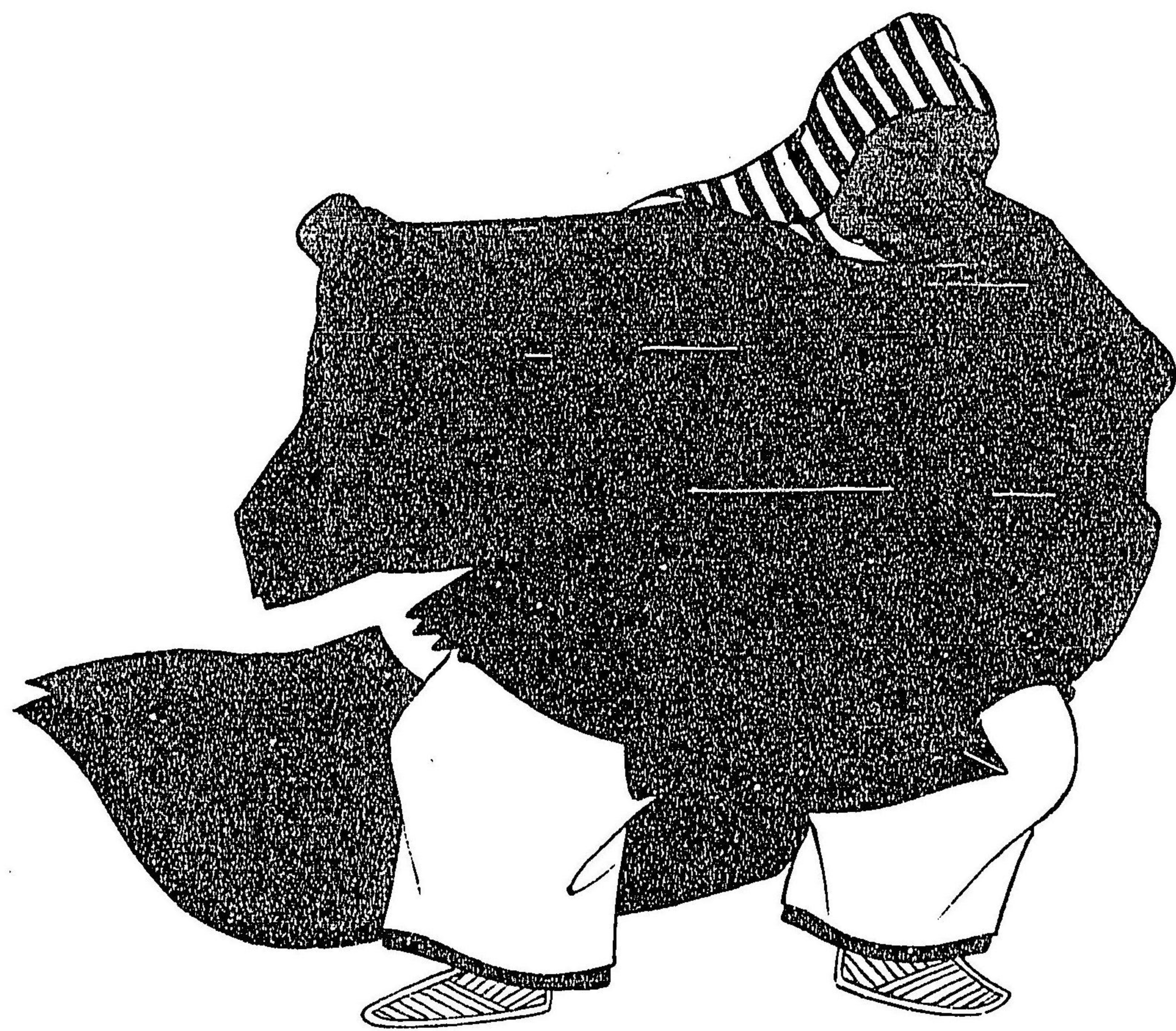




埴  
破  
四人舞

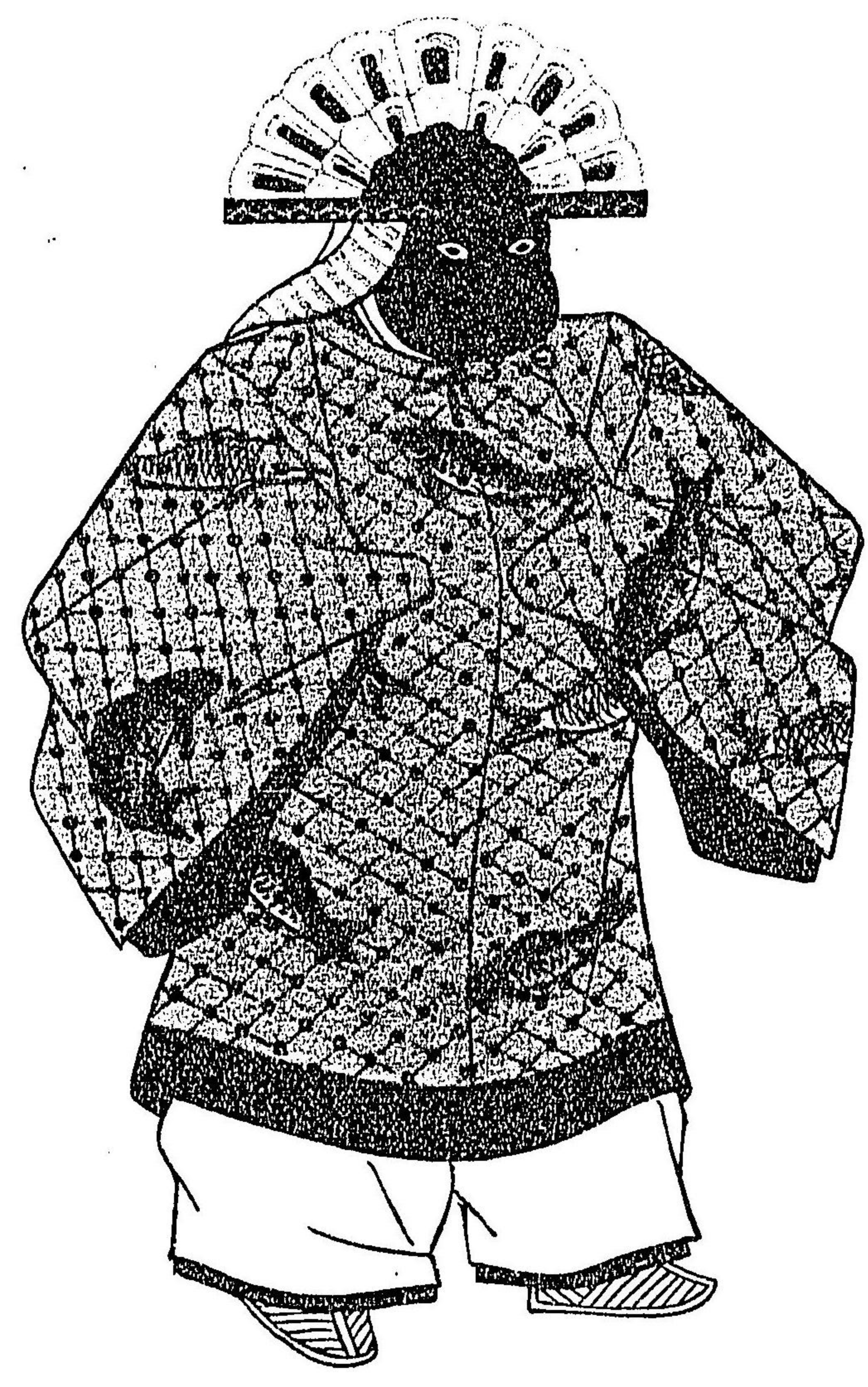


胡  
德樂  
四人舞





崑崙八仙  
四人舞



仁和樂





蘇志摩利  
此樂今者絕  
六人舞



林歌

四人舞





白濱  
四人舞



綾切  
四人舞





一  
鼓



地  
久  
六  
人  
舞





一曲



東遊

六人舞





大和舞  
大嘗會風俗  
舞樂之外  
可掛小忌



御神樂人長  
舞樂之外





大會會風俗



後五十四





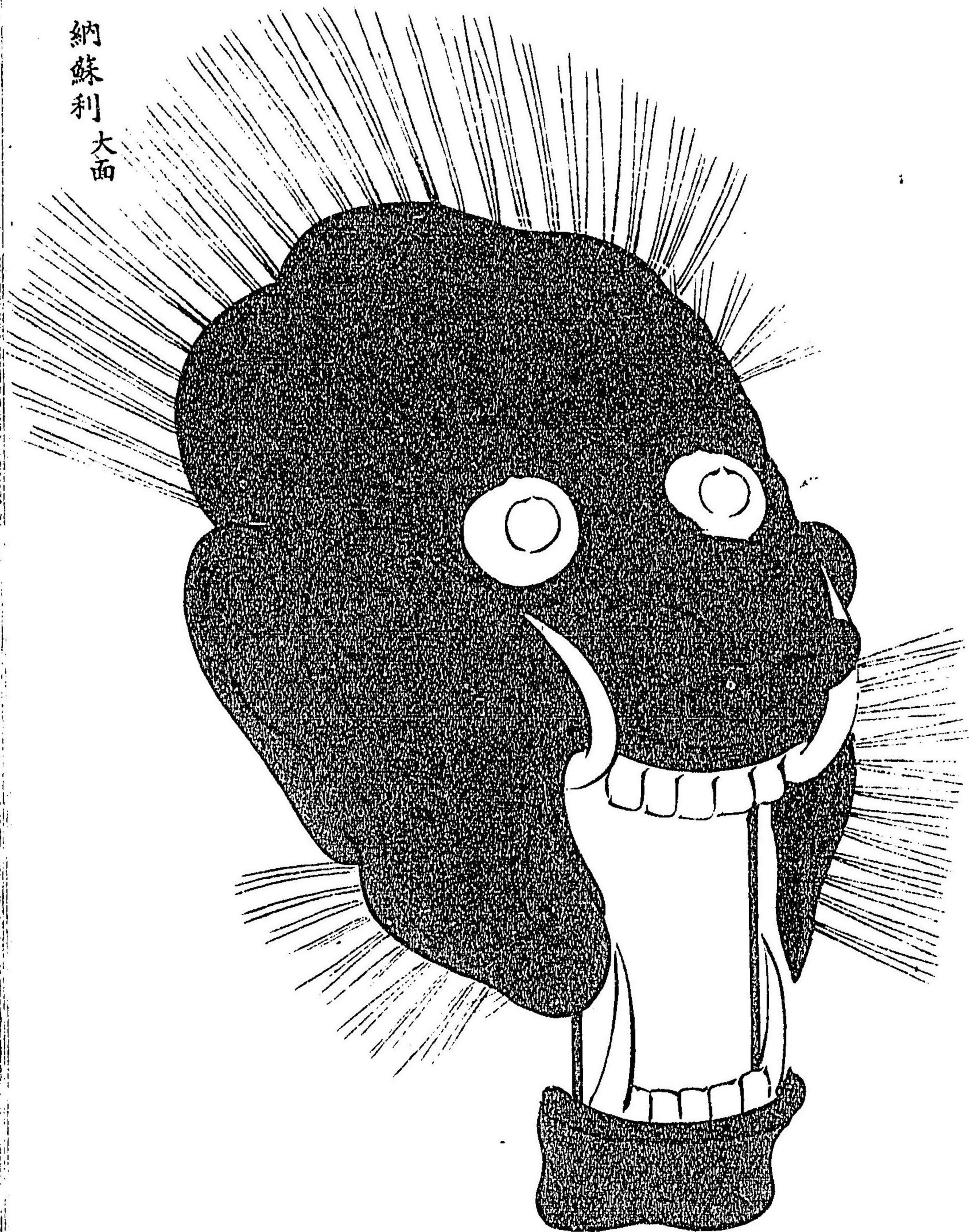


陵王 中西

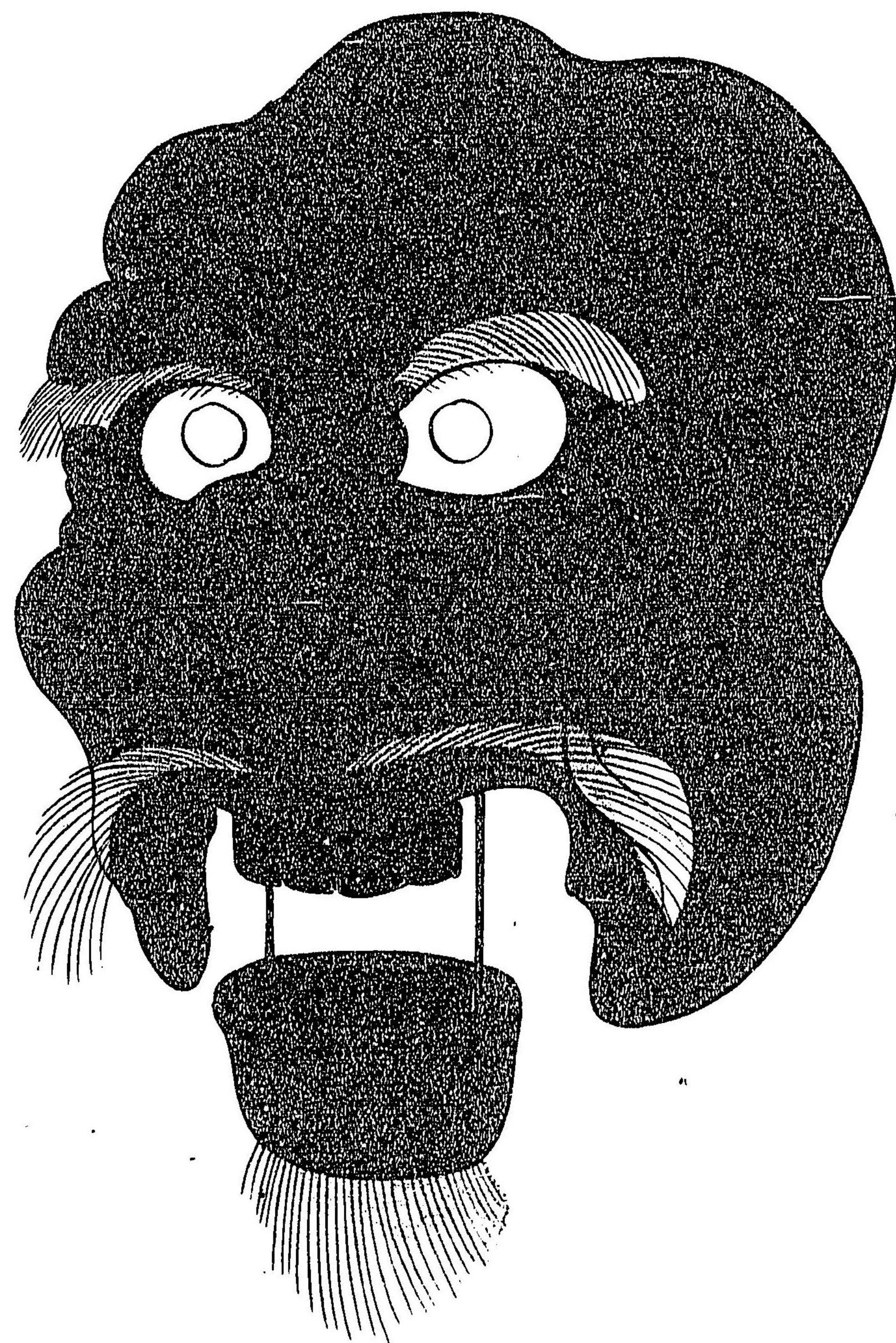




納蘇利 大面

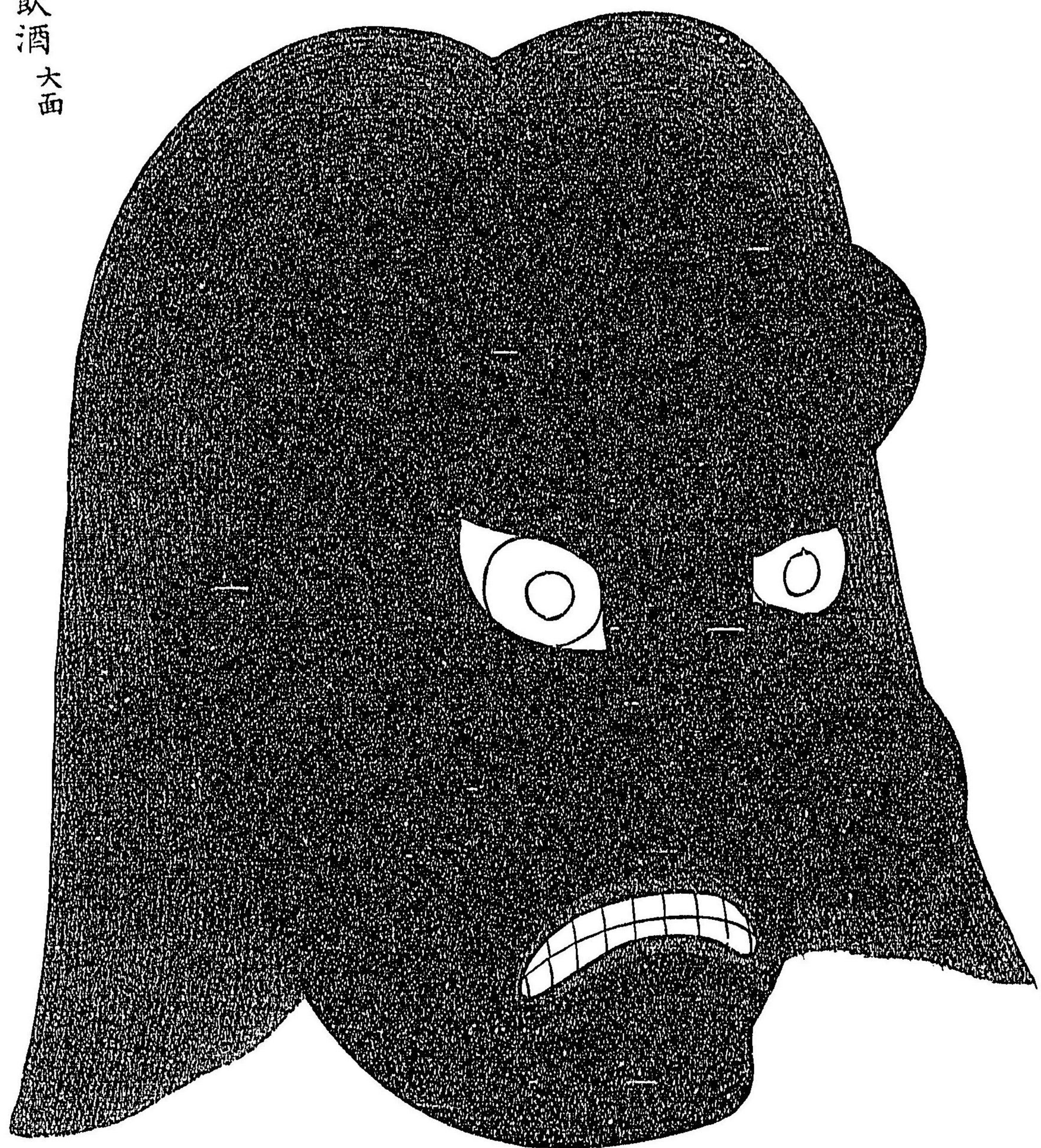


還城樂 中西

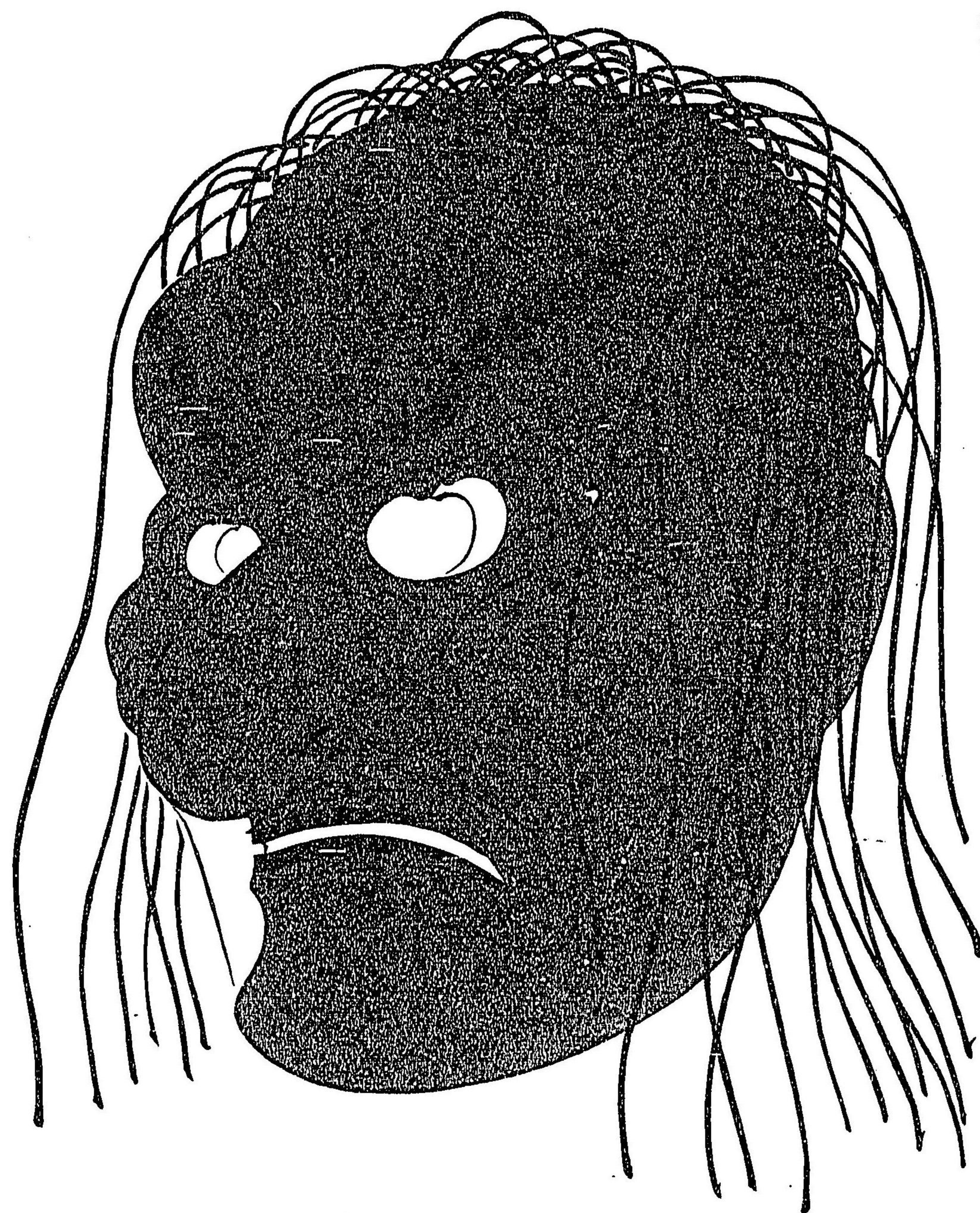




胡飲酒  
大面

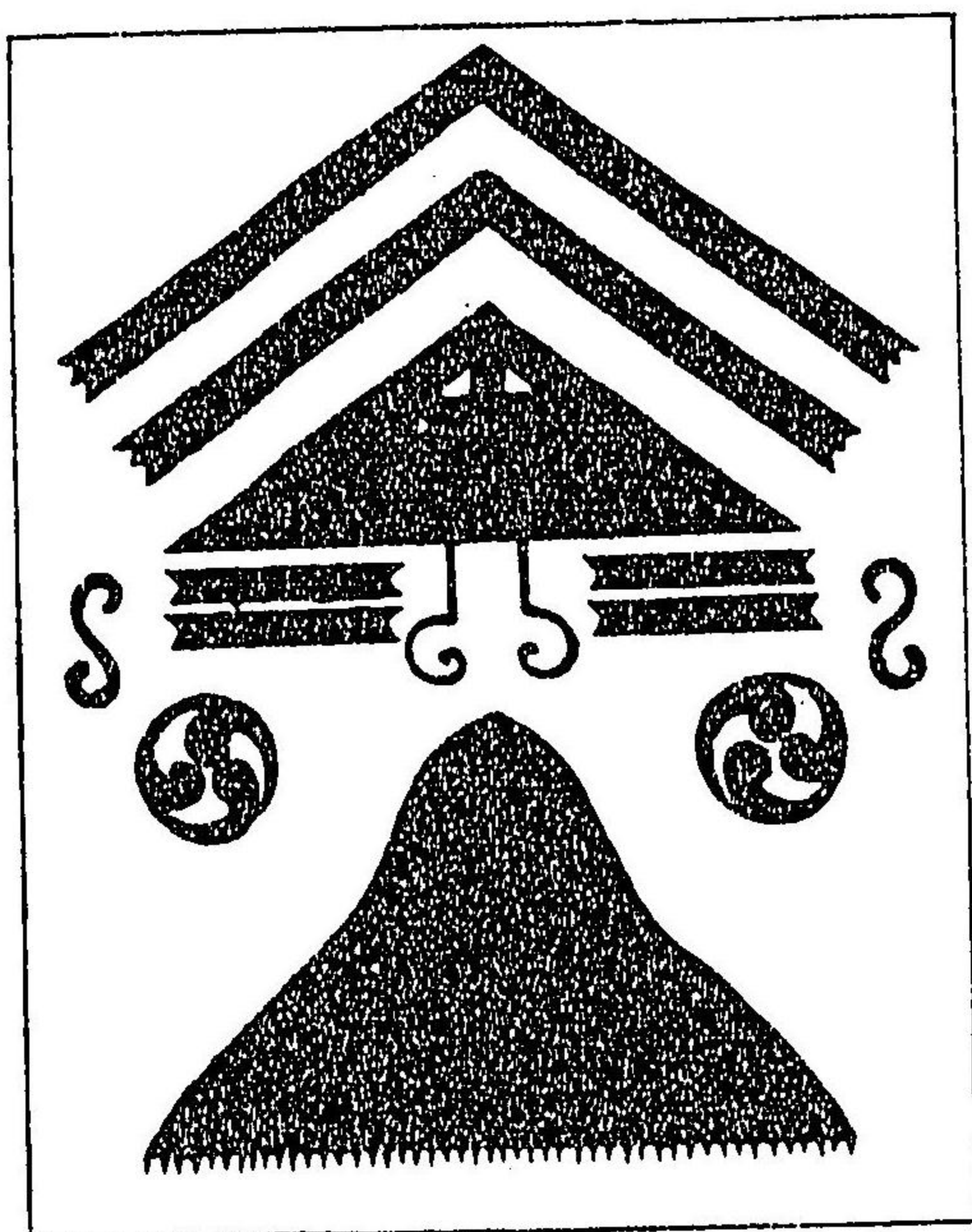


拔頭  
大面

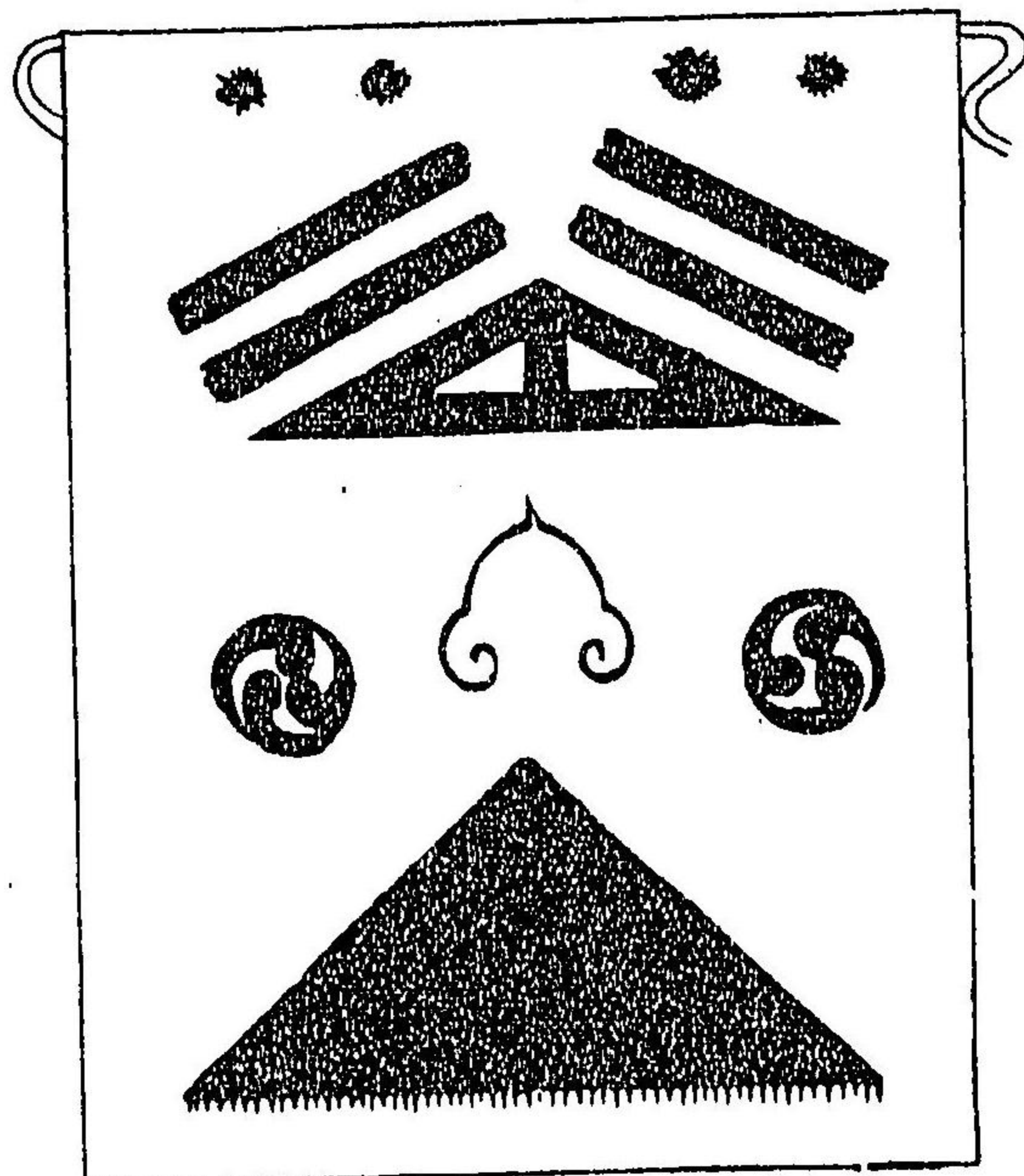




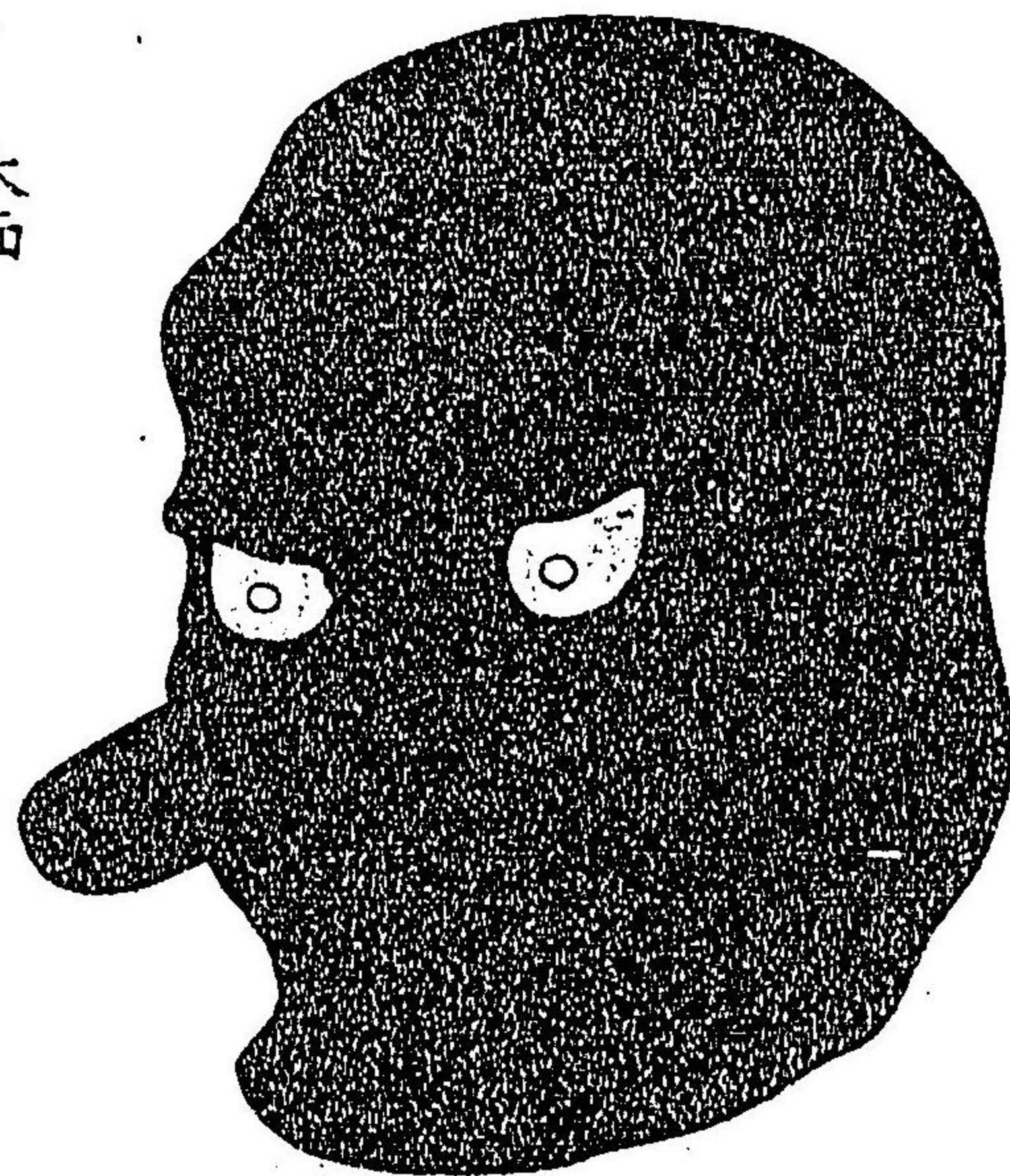
蘇利古



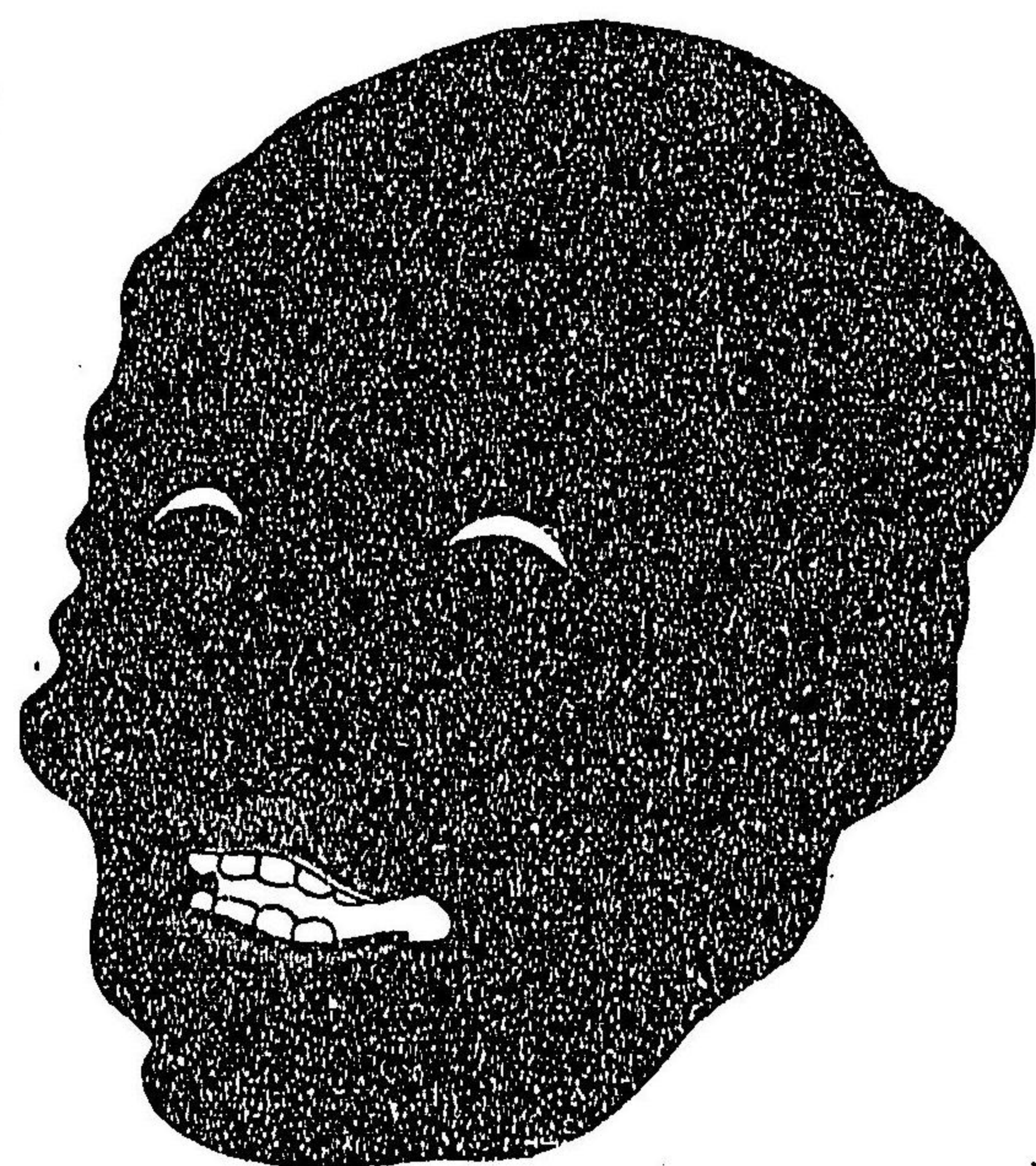
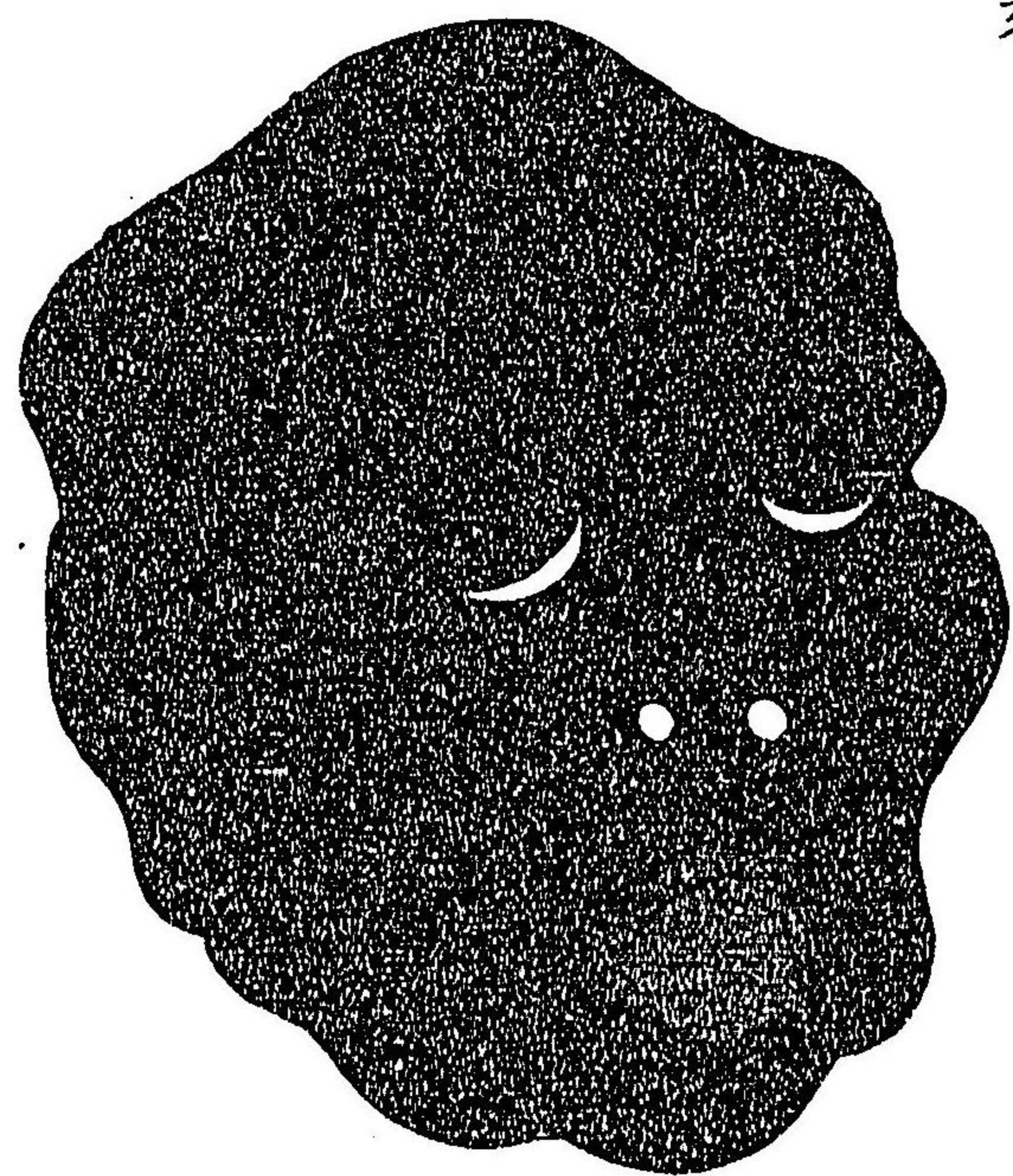
安摩



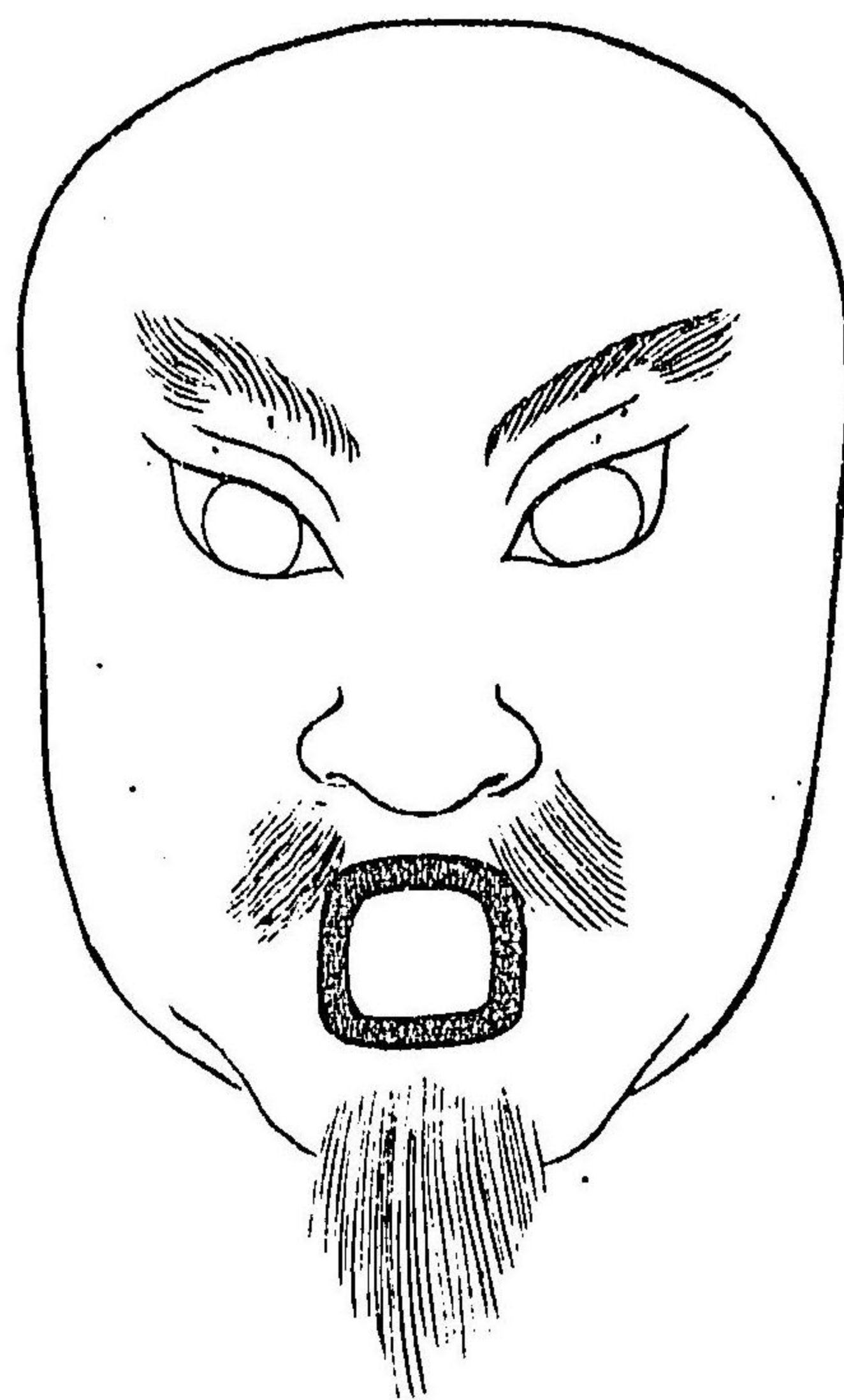
散手  
大面



二舞  
大面



鯉口貴徳  
大面



貴徳  
大面

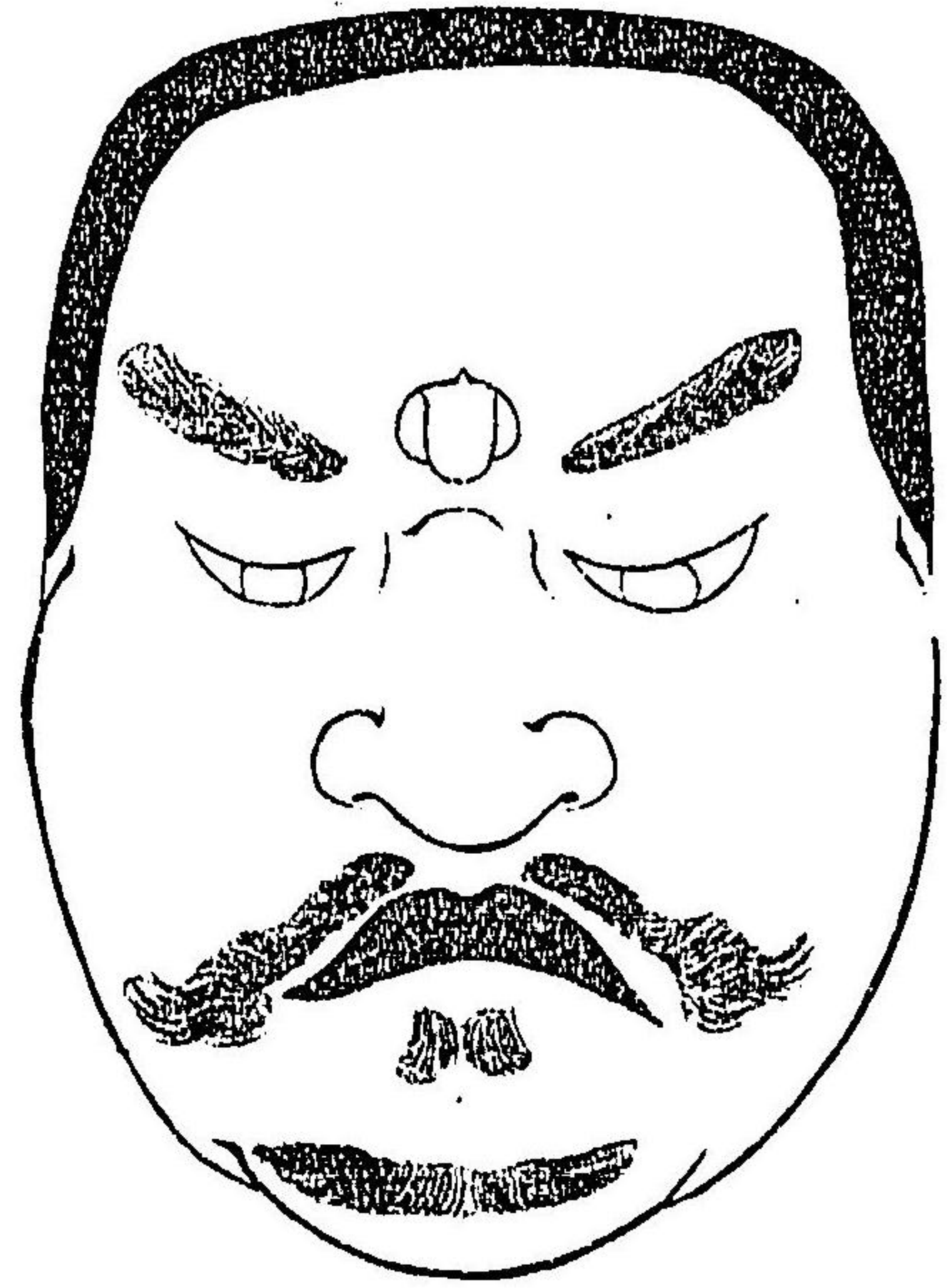




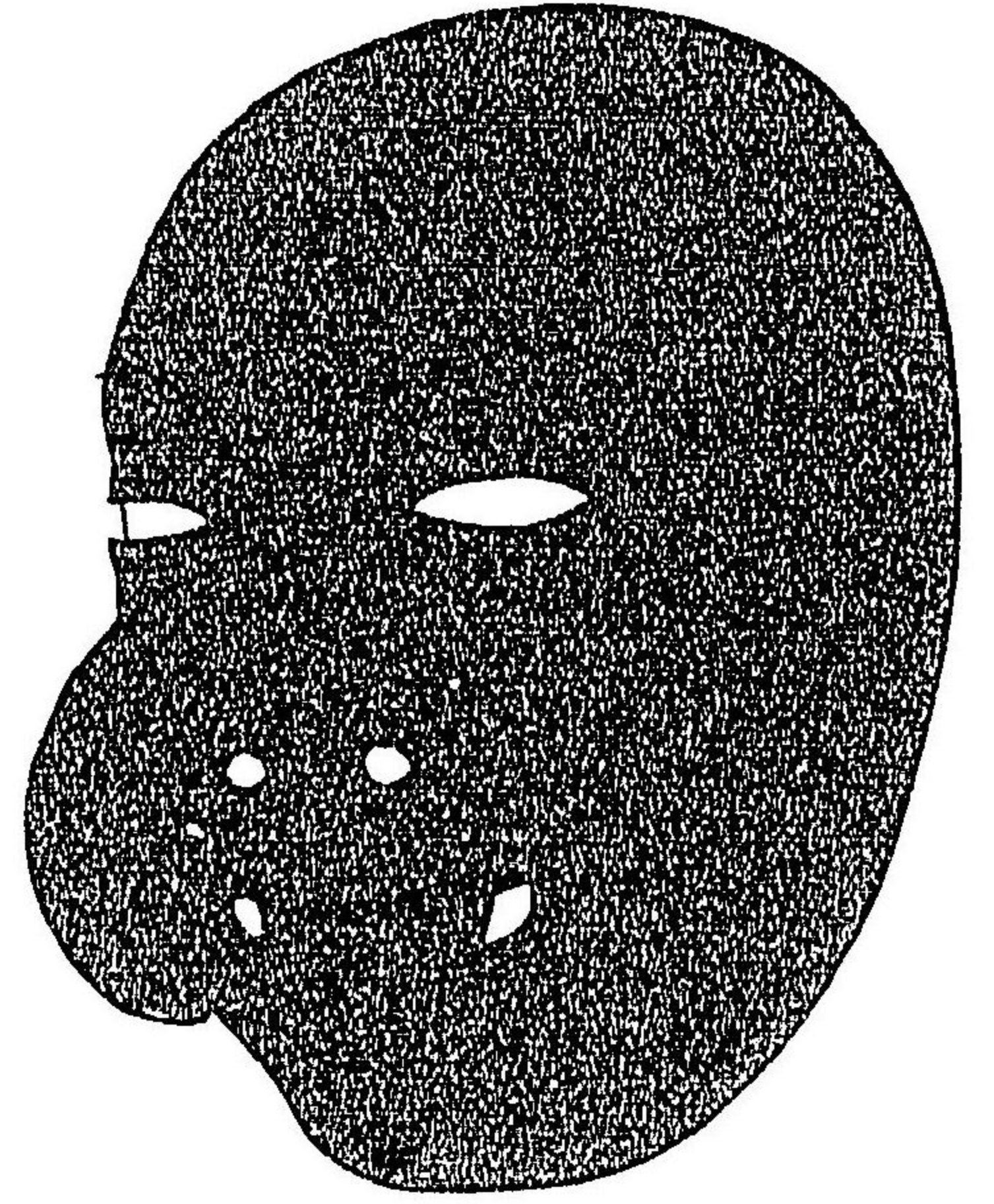
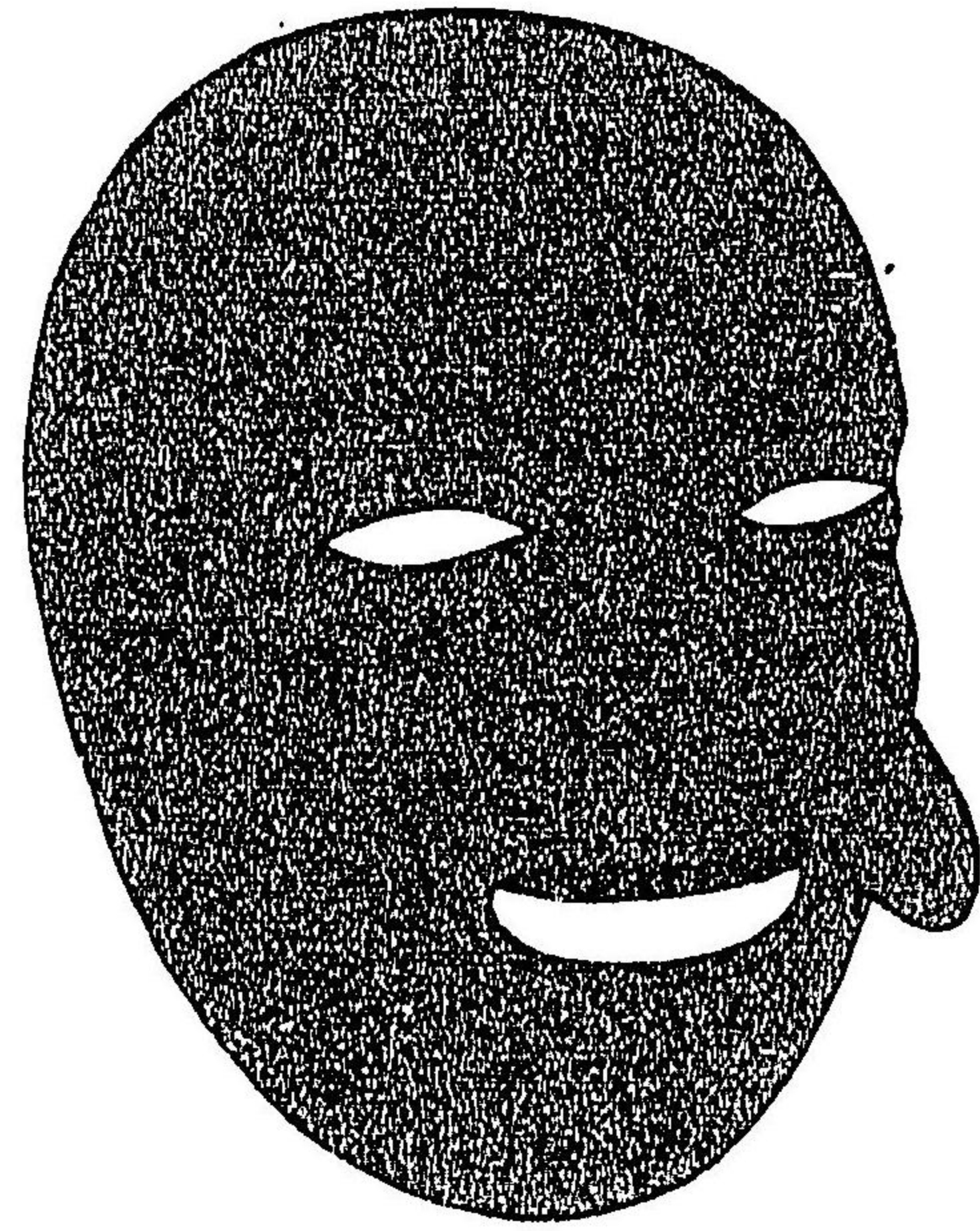
秦王 中面



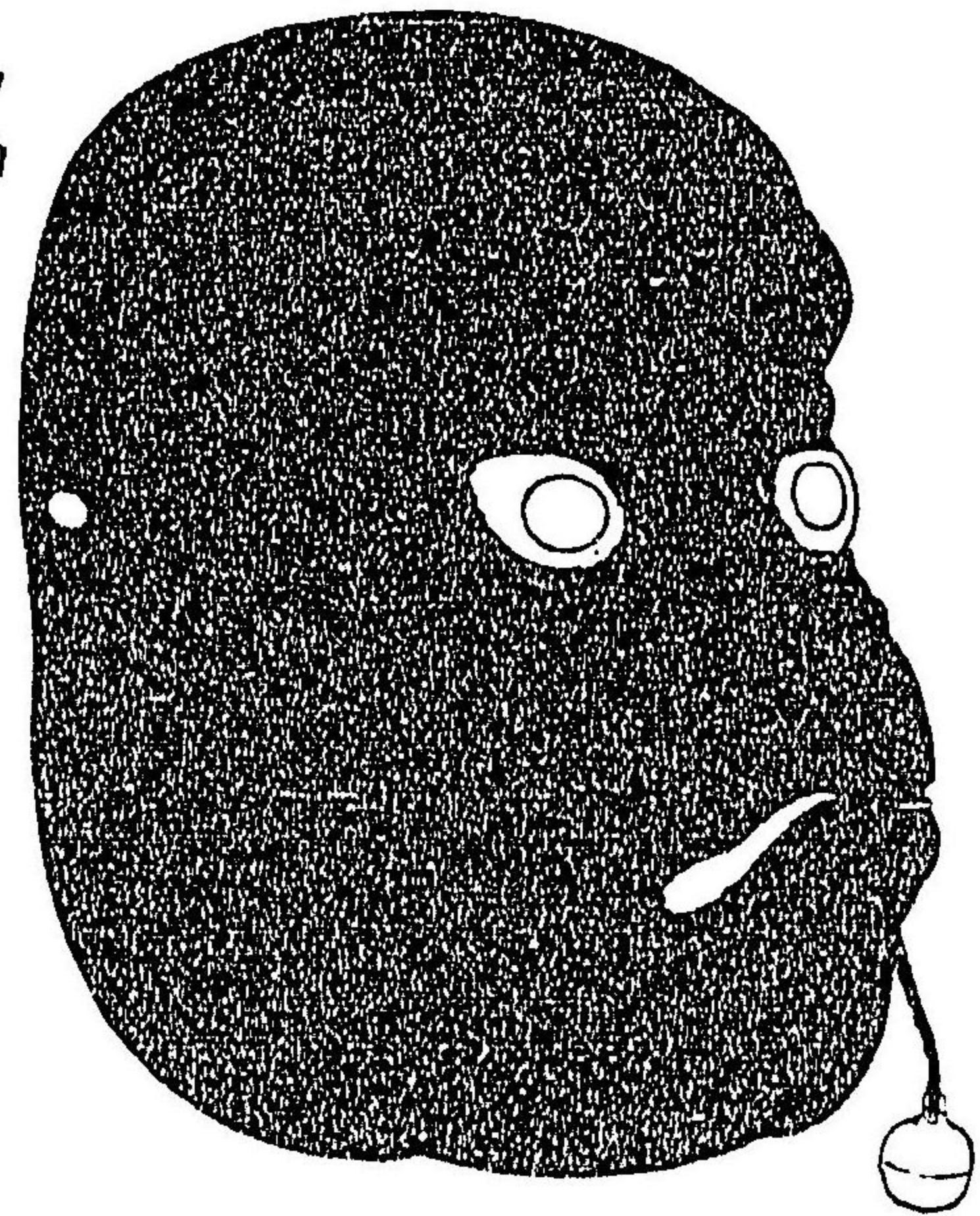
皇仁 小面



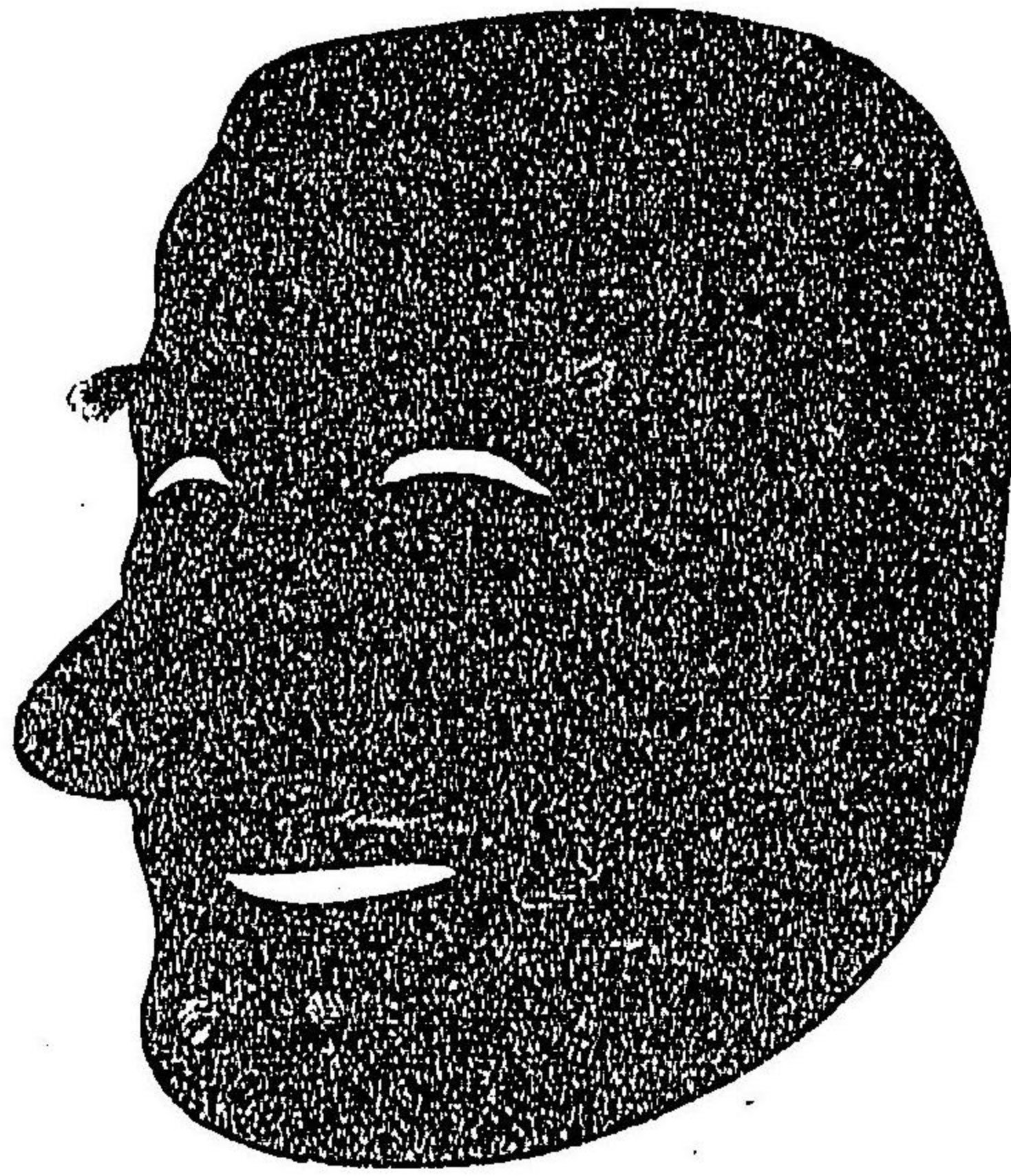
胡德樂 小面



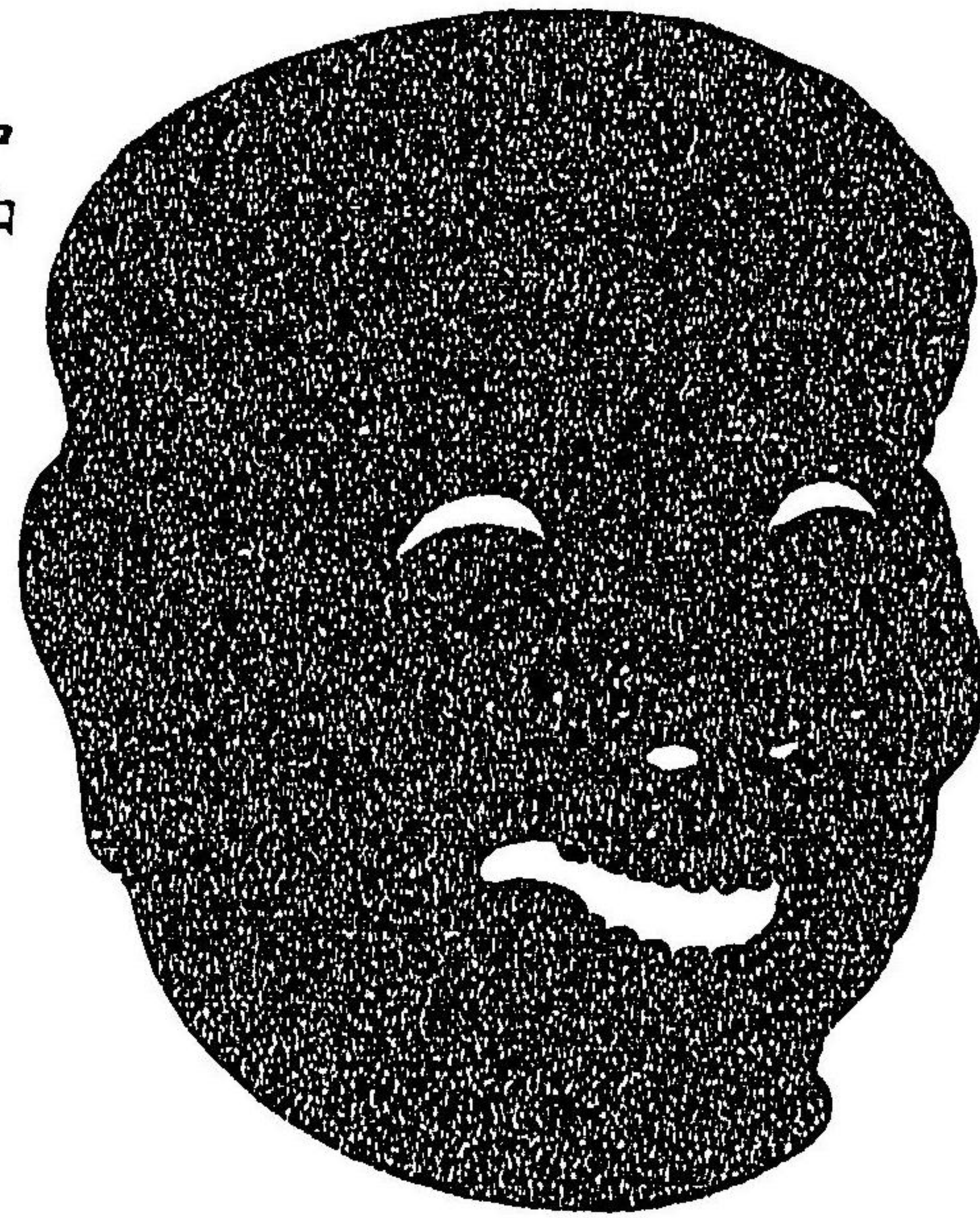
八仙 中面



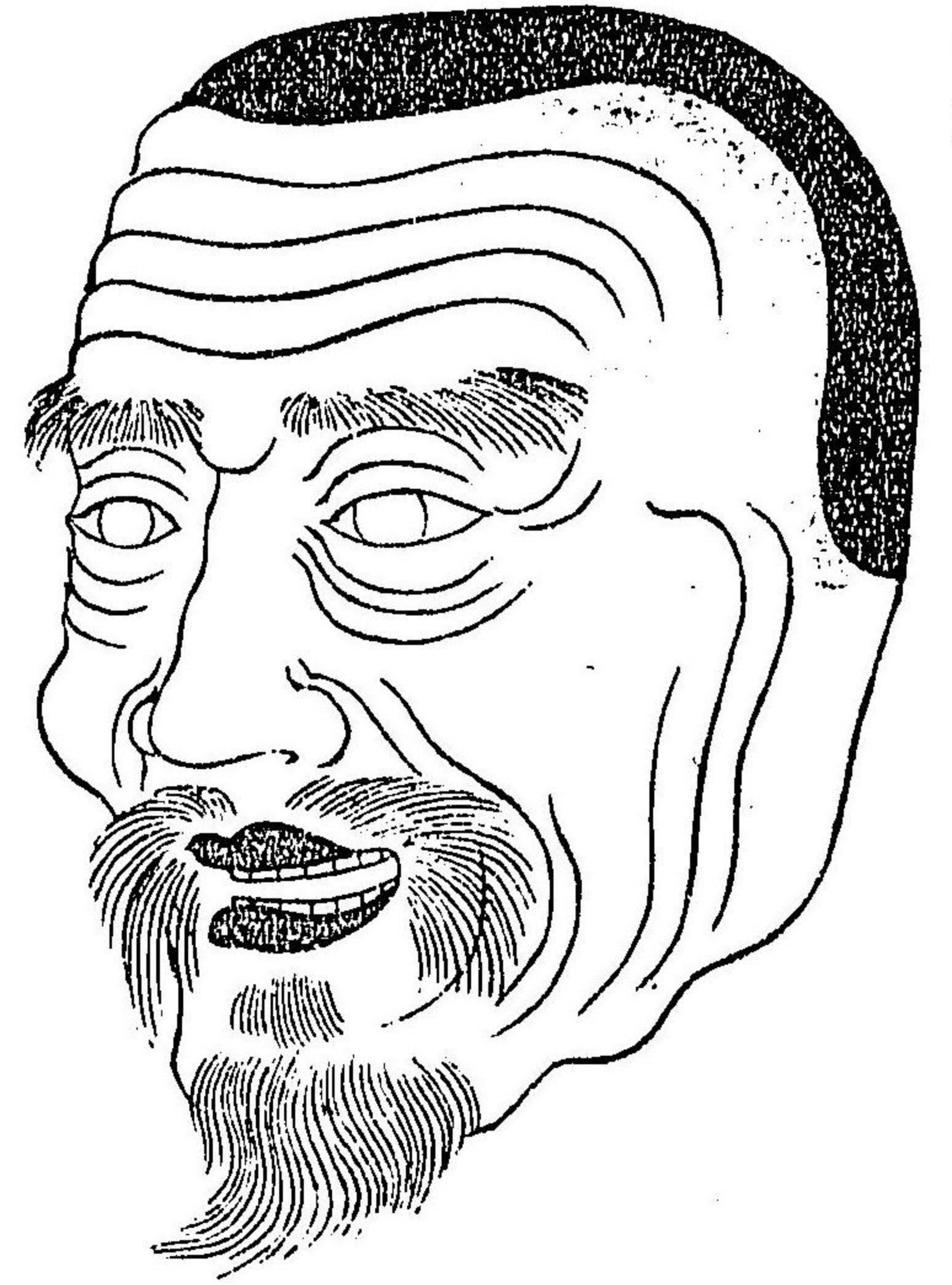
地久 小面



瓶子取 中面

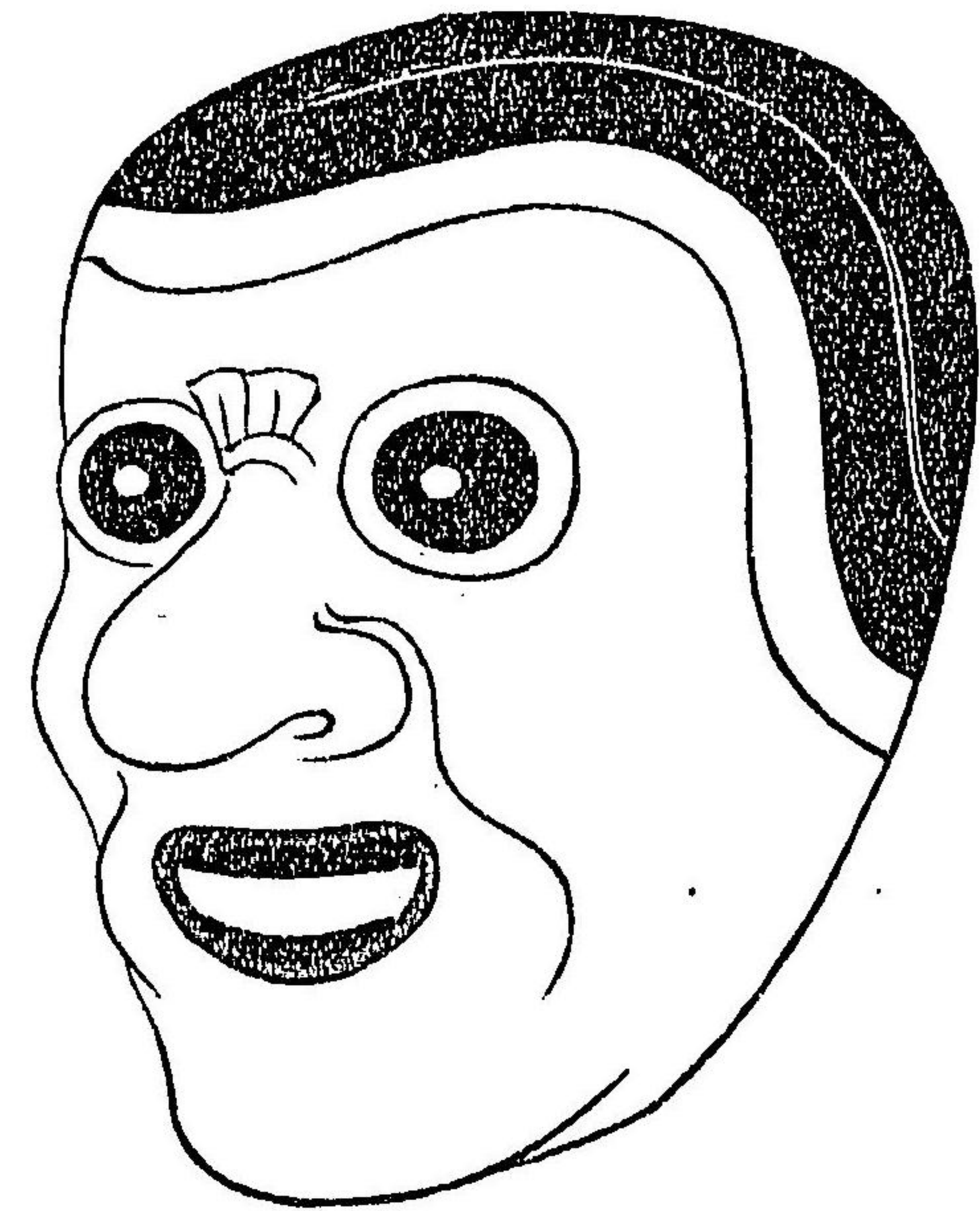


採桑老 小面





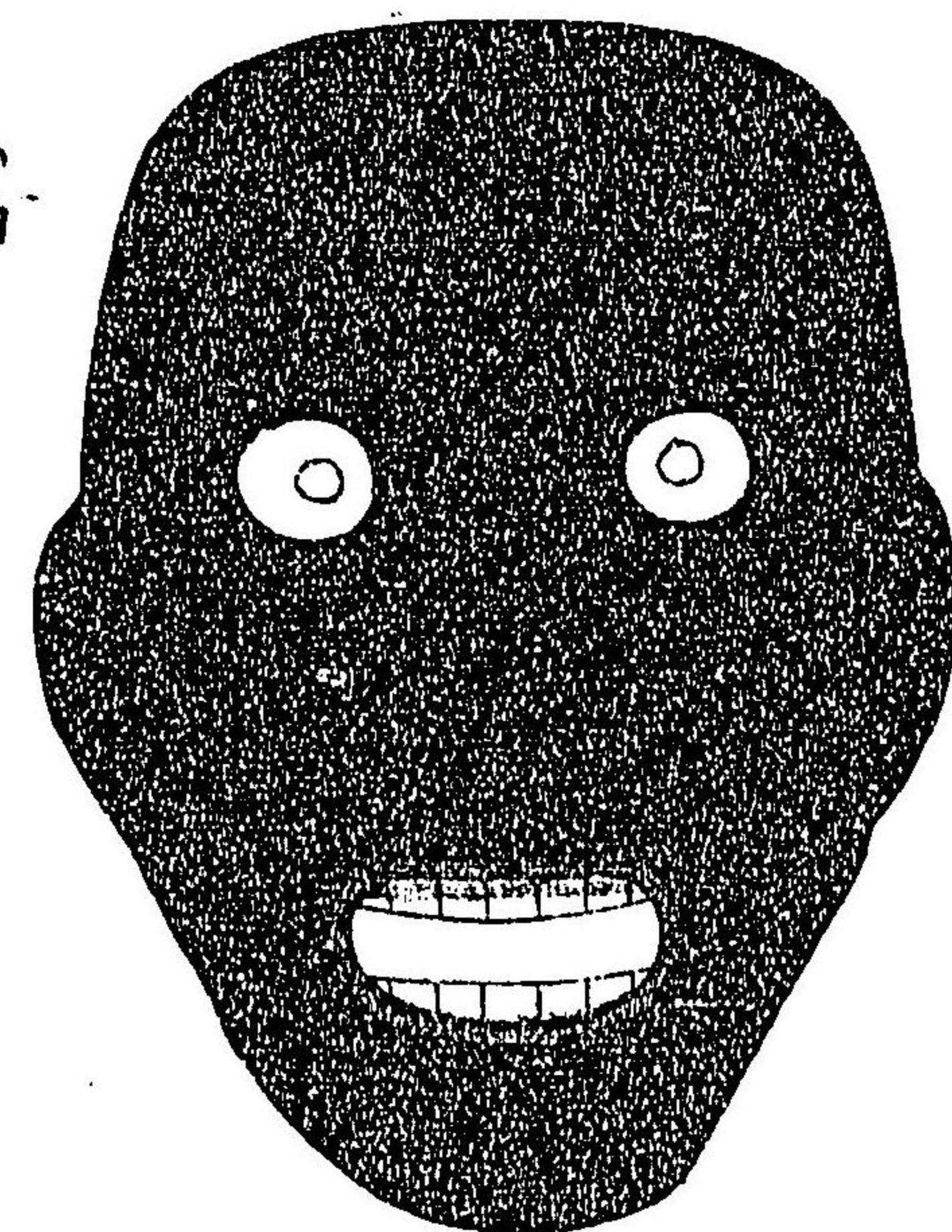
退走徳 小面



新鳥蘇 小面



進走徳 小面



綾切 小面



舞樂圖も千春ぬきの著りて文政六年上梓同十一年五月着せりといふ  
 左方のみ右方を粧する世の俗一ず誰人遺憾すのみなり三年か  
 松原佐久君を訪ひし日坐側は右舞の畫巻をあらと見とあつじしと  
 扱きたり何ぞ計らん亡友北爪老人のせられし圖をよみて松君を請ひ  
 借來り鈴木秋湖とて摹寫せしむるが故實叢書第三輯の  
 卷あり及い左方を弄せ其申を編入して刊行す予もあつじし也  
 高島千春と京都の畫人なり通稱壽一郎融齋と稱す有職故實を研究し  
 古圖類從數十卷の著あり其調度一卷文政五年刊本とす是れよりして  
 江州大森の領主最上家の仕へ江戸本所の邸に居住す安政二年二月歿す  
 北爪有卿と當一郎稱す徳川幕府の史人畫と雪且の學ひて英旦と稱す  
 後もし融齋は後い有職畫と修し明治六年文部編輯局の畫賣となり  
 十八年推樂所を徵され更に舞樂圖を作り二十二年戊子六月歿す



の師の著るる右右完具せしもの因縁を考へしものなりと此老の  
 此圖の師の未定粉本の様子を舊作と見せし古畫と主として左方  
 同じいま上梓する當り左三十九圖右三十圖の分冊に残数の  
 均しかりしものなりし樂面を右方の末に加ふ事となししなり  
 舞樂の假面を樂家録にの集古十種等の諸書に見せし鼻目の  
 異同はしりし本書に收むるもの曾と田安家徳川伯爵の藏のもの  
 就き高橋松亭に描寫せしもの其多きは居れり  
 又、多年初見のゆゑに舞樂圖の北爪松原兩友の餘慶を因りて  
 世人の渴仰を充つと得ることなれば悦ばしむられんげなり  
 事のまひ足のみおと知らずいふべし歎

明治三十八年二月五日

大槻如電識

明治卅八年八月五日印刷  
 明治卅八年八月十五日發行

(故實叢書第三輯第十八回)

著作  
所權有

右方筆者 故高島千春

左方筆者 故北爪有郷

發行兼印刷者  
 吉川半七

東京市京橋區南傳馬町二丁目十二番地

發行所

東京市京橋區南傳馬町二丁目

合資會社 吉川弘文館



